

佐藤文隆

10日午前「放射線大学教育」座長コメント

「大学教育」の発表は、大学生への教育というよりは、専門家として社会にどう発信していくかと課題の発表だった。一つは、東大教養での取り組みであり、様々な専門を総合して発信した先進的な取り組みの例である。もう一つは、研究者個人がネット上で活発に取り組んだ経験であり、個人でネットに曝されることの問題にも触れられた。ホットな社会状況での放射線言説は、科学者間のズレやネット特有の”炎上”で、混乱が続いた。この過程を、今後のために、きちんとした経過の記録をどなたかに作成して貰いたいと感じた。そうでないと、ドサクサで現実が進んだ事実だけが後味悪くのこる。